

【お父さんも出番を】

「子どもの教育はお母さんまかせ」という考え方もちあわせてはいないでしょうか。普段ほとんど話をする機会がなくて、たまに話をするとして「頑張ってるのか」では、関係がいつになつてしまいます。志望校はどこかとか、どういう理由で選んだのかなど、親としても関心のあることは、お母さん経由ではなく、直接、話し合う必要があります。普段の会話が少なければ、これを機会に少しは話をするようになるかもしれません。男の子でも女の子でも、子どもが大人になるためには、やはりお父さんの出番も必要なのではないでしょうか。

【たしかに大学入試は大変だが…】

大学受験は18歳の受験生にとって、それまでの人生で最大の難事業ということになります。高校受験もけっこう大変だったように思うこともあります。大学受験と比べるとそれほどでもなかったという場合がほとんどでしょう。なによりも選択の幅が比べものにならないくらい広がります。高校受験では、普通科に限ってしまえば、実質的には数校の中から1校を選ぶという程度ですが、大学は780校を超えますし、学部別になると2,450以上になります。その中から数校を選んで受験し、最終的には1校だけに入学することになります。要求される勉強量もずっと多いので、受験勉強が長期にわたります。さすがにこうなると、受験生本人も迷ったり、悩んだり、疲れてきたりします。親としては、なんとか手助けをしてやりたいと思うものですが、実は勉強そのものについてはほとんど手助けのしようがありません。本人に頑張ってもらうしかないのです。

しかし、長い人生を見通してみると、大きな努力のいることや、難しい選択で胃が痛むような思いをすることに、これから何度も会うことになり。そういうことを通じて子どもが大人になり、成長したり、感動したりするのではないのでしょうか。さらに日々の生活のなかで、大人たちもいろいろと苦勞をしているものです。受験生だけが特別に悲壯感に満ちているわけではないでしょう。受験生本人は、試験が近づくとつれて緊張感が高まり、視野が狭くなりがちですが、それはある意味では勉強に集中していることでもあります。まわりの家族まで、いっしょになってストレスを共有しているのは、かえって息が詰まってしまう

ます。苦しくなってお母さんに相談しようとしたら、お母さんのほうが緊張しているように言い出せなくなった—などということになったら逆効果です。少し距離をおいて、「あなたも大変だけど、大人も結構苦勞があるんだよ」という程度の構え方が、実は受験生にとっても気の休まる場所があるのではないのでしょうか。

【親としての援助】

勉強については手助けのしようがないといいましたが、実はもっと根本的なことで大きな援助をしているのです。それは経済的なことです。大学に進学して、少なくとも4年間勉強できる経済的な条件を整えるというのは、非常に大きな援助です。大学進学を希望する高校生がすでに半数以上になっていますから、大学に行くのが当たり前のような風潮もありますが、それは少し考え違いをしているというものです。

大学進学費用の準備というのは、ふつうの家庭にとっては大きな負担です。これは、受験生本人が「頑張って勉強して大学に行きたい」というから、親も頑張って用意するものなのです。ですから受験生が頑張らないのなら、親も無理して頑張らなくてもいいのです。「親が頼んで大学に行ってもらおう」という構図はなんとしても避けるべきです。大学へ行かなくても立派に生きていく道はいくらでもあります。あくまで受験生本人が「大学へ行きたい」といって、「それなら親としても準備をしよう」というのが正しい姿でしょう。アンケート調査などでは、お金のことを言われるのが嫌だったという声がありますが、何度もしつこくいうのはともかくとしても、一度は正面から話しておいてもよいのではないのでしょうか。

【聞き上手になる】

ある統計では、受験生の親の9割以上が「自分の子どもの勉強は充分ではな

い」と感じているそうです。ですからついでに口を開くと「もっと勉強しなさい」「いつまでテレビを見てるんだ」などと説教調になってしまうがちです。「勉強しろ」というのは、禁句というほどではありませんが、ほとんど効果はありません。高校生にもなると、親に怒られたから勉強するというものでもありませんし、だいたい自分の部屋に入つてしまえば勉強しているかどうかはわからないものです。

つい説教をしたくなっても、ぐっと我慢をして、子どもの話の上手な聞き手になってみましょう。どんな話でもいいから、子どもが話しかけてきたら熱心に聞くことです。途中で話の腰を折ったりせずに、流行の曲やタレントのことでよくわからないなら率直に質

問したり、適度なあいづちを打つなどして、ともかくしっかりと楽しんで聞くようにします。多少異論があっても、早急に結論を求めないで、最後まで話を聞いた後で「そうかなあ。こういう面もあるんじゃないか」という程度にとどめておきましょう。迎合するというのではなく、相手を尊重する、大切に思っているということを「熱心に聞く」ということで表現していると考えてはどうでしょうか。気持ちよく話を聞いてくれるというのは、とても楽しく心安らぐものです。信頼されている、大切に思われているということが伝われば、少し勇気がわいてくるのではないのでしょうか。大学受験に、その勇気はきっと役に立つことがあると思います。

高校生のためのオンライン英会話

英語の入試が変わる！

民間検定試験導入で4技能評価へ

日本の英語教育は、グローバル化に対応できる人材の育成を目指し大きく変わろうとしています。新しい学習指導要領では、「小学校で英語授業の教科化」「中学校の英語授業を原則英語で実施」など、英語教育改革を進めています。大学入試においては、2019年度を最後に大学入試センター試験が廃止され、2020年度より「大学入学共通テスト（マーク式）」が導入されます。それから3年間、つまり2023年度までは「大学入学共通テスト」と「民間検定試験」のどちらか、または両方を評価するようになります。その後、2024年度からは「民間検定試験」のみの評価へ移行します。2技能が重要視されていたマーク式から「民間検定試験」に移行することにより4技能が評価されるようになります。

4技能重視の大学入学英語へ

センター試験廃止	2020年度	2024年度
	大学入学共通テスト	民間検定試験
	大学がどちらか選べる	読む 書く 聞く 話す 4技能評価

文部科学省「大学入学共通テスト」実施方針 2017年7月 第1版

選ばれる理由01

マンツーマンレッスンだから、聞く・話すに集中できる！

レッスンは毎回マンツーマンで行われるため、子どものレベルに合わせたレッスンが進められます。学習すべき内容に不安がある生徒には定着のための反復練習を、レベルの高い生徒にはフリートークにチャレンジしたりと、講師が一人ひとりのレベルに合わせて柔軟に対応します。

選ばれる理由02

学校や塾で学んだところを使える英語力に！

OLECOで使用するテキストやカリキュラムは新学習指導要領に対応しています。つまり、学校や塾でこれから学ぶ、または学んだところを英会話としてレッスンします。

選ばれる理由03

英語4技能を無駄なくバランスよく学べる！

レッスン後にテキストで出てきた「文法や単語の復習」「学習した文法やフレーズ」を用いた英作文の練習ができます。オンラインレッスンだけではなく、その効果を最大限に引き出す仕掛けがたくさん用意されています。

選ばれる理由04

英検など各種検定試験に対応する力が身につく！

新しい大学入試では、英検のレベルでいうと2級〜準1級の英語力が必要になります。OLECOのレッスンを高校3年生のBOOK10※までしっかりと学んでいけば、英検準1級相当の4技能に対応した使える英語力が身につきます。

塾生 9,800円 / 月(税別)

※BOOK6までをしっかり学び英検準2級相当の英語力が身につきます。
※2018年7月現在はBOOK6までリリース、BOOK7以降は順次リリースしていきます。



シリーズ『大学受験情報』第4回 受験をひかえた 親子関係